馬士の歌嚢

全

208
153

国立国会図書館　　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

馬士の歌・土嚢

完

加奇露古

208
153

国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

馬士の歌嚢

全一冊

総中記行獨詠
滑稽歌亜賊集
凡而田舎之風
色或者奇説等
戯以會之

十返舎一九編

自序

国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

国立国会図書館　　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

かの良朱子つくしと
とれ扇子をいぐし
うすひてこれはさん
せんしおりけるを
ひらきて　みんなぐれハ
ふ赴傾国者不買
倡妓ハ堪忍也ふ買ハ
倡妓者ふ溺色慾
ハ堪忍也　この歌あり　そのうちハ

その日ハ。ふだしのちびやしいてるに宿のりこく。
やまらひてるに。あるじ出て。いこ傍なん。めさるべく
きらいてるといらおやしていふにゞかが僕

ちきなかるものゝいてるハ。この歌のめしりおんな
をハ。こゝ傍しゃ侍るハ。だきこのやうに寄えべれど。
手ゆんハ。さりえべらほとおもしひぬ。かの花女の
きゐハ。かこうちてゆゑ。ゆて。唐独のおかつまたる
を才にゆゑ。ひおしに絆の呉袋をたきこるハ。
いしにげるてさなかしおのこのいのめしきとそがこ
なりけれた
出流りハ七ヶ傍　京漢　ある　風らん
さらけ　下流　ハ　気　制　免しし　ある
あくる日侍会乃印珠下にいたりて

国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

国立国会図書館　　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

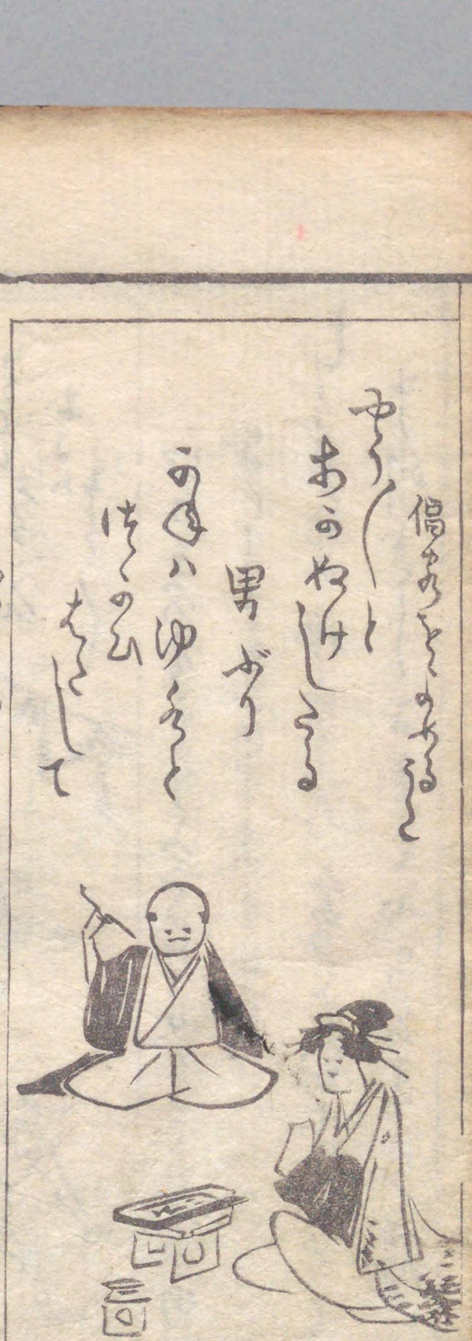
拂波真跳利根
川鯉放水揺元
北浦鱣鱸

国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

国立国会図書館　　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用



国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

国立国会図書館　　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

国立国会図書館　　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

国立国会図書館　　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

しと紀。さゞめて此むしろふ。ゆゑ下のひし人の。
ゆゑに程名を法けてよと。これはるふ。その生業
としぬふハ。船の器物を知て。ひさぐ紀ぬふ
なれバ。其あんぢ。入船の帆付てふ。これ名を
まゐらせるとて

入船の帆付うしなきれ　斎　其　客
これも　まうけの　屋しり　なをれ　ん
井内法氏へ其の字印ヲふさゞれ名を呈するとて
長生の　おとしの　数をよこ　とまん
年乃　まりり乃　りちこと　乃さゞん

十三

東邑子落こ子に口ぎなりれて。後見り　に出大ぐる
戸川しゆへるハ。ちの紀此まで　鰯網をひきて。人来
千れに及び。対さし　留要おまとおりて。数当
乃ち花なりしに。ゆゑハ入て。名のこと此也付るとなん
いとしあこ　むきこる　母このし　名しやと
願うつけ　こそに　法けて　つ出さ
此後めぐり。飯恩の　異なり。てしの川口を行程
二五里之間。彼うち　海ふの　景色。当の山手　怪石いふ
だのりなく。風ちの　秀美　総中　才可　壮観と　遠ぐ。
ゆしくハ。市が総行　当流り。おらりし　付る

国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

きりが演ひて
来てゑれハとゝハ小だんのきりがたま
一夜案乃友千
この夜めぐり乃ゑるさ。仙臺の元船そのりて
夜気ぐり まぐ三ぎんハまいり給ぐ
さて 夜だと 小や 仙臺の小給
そこそろハ代官町の君を持居とゝ入る事。深(通)
たくりゆるが。おるじ子はかけてとて
君の代ハ 弓も 奴 く給 まち
おこなりれり 武とり 寒 持 居

国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153
ガラス使用

国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

左妹の邑とりいぎまはれて。偶れて相びたべりし
とれ。そのれりの徳たちといへるり。事蹟ひとつ。そ
出しとらせるり。やがてこの夜。見ふくしとて事
あへしまべれど。事外りうらいんもあらば。いとおも
わらて。ゆとらふぎくもあらば
見ふくしとこのへまはいのり 武朱ひとり
はるのはす いれはみよしの
和相来居子二一天久子やど。このこはらにありて。
いとおりしがりたまひ。やがてこの徳たちに。このくと
いとはりし侍はとたれ人ゆんしに徳ちりかたりて

よこしおこしてるハ 「これぎりの武朱なら
めらうが徳たちおまゆハ夏り一ぷんの旅と
かくまへくるり。事が僕ち吉。さいれをいき
どをとりてるもおこのし。さぐらくありて吉。
矢吉の亀をさひうけく 「夏んのあらはな
なふをぬのしやがるあらがぐんなハ十返を
ぐぐしまし奥しぬ

倡家のあるじこれりさんせよとありけれハ
いぎこさらハ材を持せん
はくこと先し
精をものよめな うん 同

国立国会図書館　　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

扨(さて)技(ぎ)にもなるてふ
黒木(くろぎ)こるおなの
ふれ歯(は)ゑんやく
おきなひや
きくる

それとり堀川とりてるり。網人のめしを討(とり)
たづりしにおるじはおいさで。口(このこと)の(もめなり)変也(なり)。いと
きてしくこのとり出のふを
およびはたく用ごとにおりひとくなりけれ
あらしまなる　友(とり)　まこくしけ

十七

網人(あみんど)のめしはやさしが浦にいとし網ひろせを
生活(なりはひ)にしおふよりなれて
舞(さう)の舞(さう)の矢きしがうらしろ乃いとしあと
的(まと)あて　たづりしさぬ　御(ごしゆう)手(ぎ)　蒼(ぜい)がら

さの画り
蒼(ぜい)もよと　おりけれハ
大(ぜい)の
蒼(ねぜい)のうしぼに
うしおけ
祝こそ小ぜんも
ゆぶんなら祝ぜ

国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

国立国会図書館　　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

国立国会図書館　　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

そこよりして又洗子江にいたり。其住子。本庄子
と御ふつぎや手つ反に赴んとて小舟来といふる
なり。小舟より打乗ふたちやくも無反に出る行事
はれぞ。法甲ころにまゐり。法施しもありて
法しもそ 祈らバ 望も 知らく 恐し
毒ぐの 手つ反 つれ 老の乃 神 垣
あとりの町に出る田や何がしといふるハ此地の使者
にて。よく人のせきとなることを好める人のよし。ゆに
の所をよくこそとてとれるなり
衣の 名の 香の 町 乃 おもしこ ぶして

国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

国立国会図書館　　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

国立国会図書館　　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

あらう蛎に牛身乃牛刈字ごれらん乃
たのしとられて　だらくしにせし
さらに内師氏へ付ひたべけしハ卯月旨曽の頃
なりし入麪を出しぬへるにあるじの君も俗に
猪ちぐさん出ぬひけるが。ふうぬんのうへに出る。
牛の子と。左の足ぬふを。いらにもらふに持病の病に
さりけるべるとさらへられしを
掘のそとへ左衛門これバ牛の子をて
これ持病の人けのこちあり
いまさのこゑにて

さの鄕にゆらさせ　くまへ　いりまでも
白柳の牛乃ちこのひなり　せば
いまさのおハ利根川なり。此にいにしへより。
ふらんさぐこおりて今に存せり。これを雄瓶
唯瓶とらふ沙こちらるとも。此かめのうへ。せいさい
なるが御のつゐいとしなかなり
うとんぎり　たなしのたまりなさだやな
あり　うまし乃瓶のおなるを
おられふる無常のおれん牛ハ天津兒屋牛
乃牛にして。日本磐にふいちぎりし。牛門

国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153
ガラス使用

国立国会図書館　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

208
153

国立国会図書館　　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

208
153

国立国会図書館　　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用

国立国会図書館　　馬士の歌嚢 208-153

ガラス使用